

2023年9月30日(土)

日本子ども安全学会第10回大会

—子ども安全フォーラム—

於)東工大蔵前会館

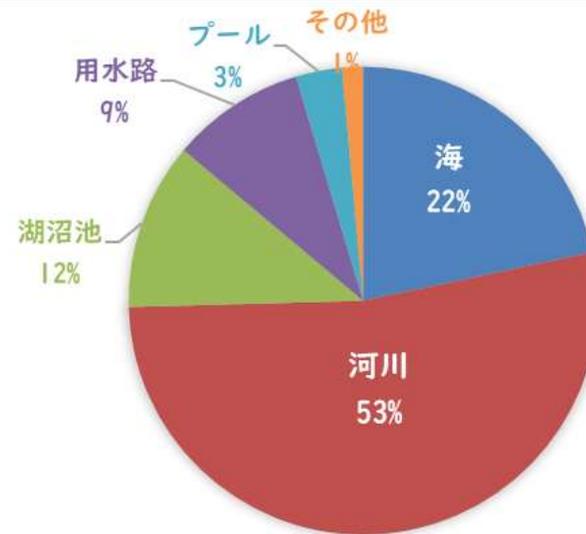
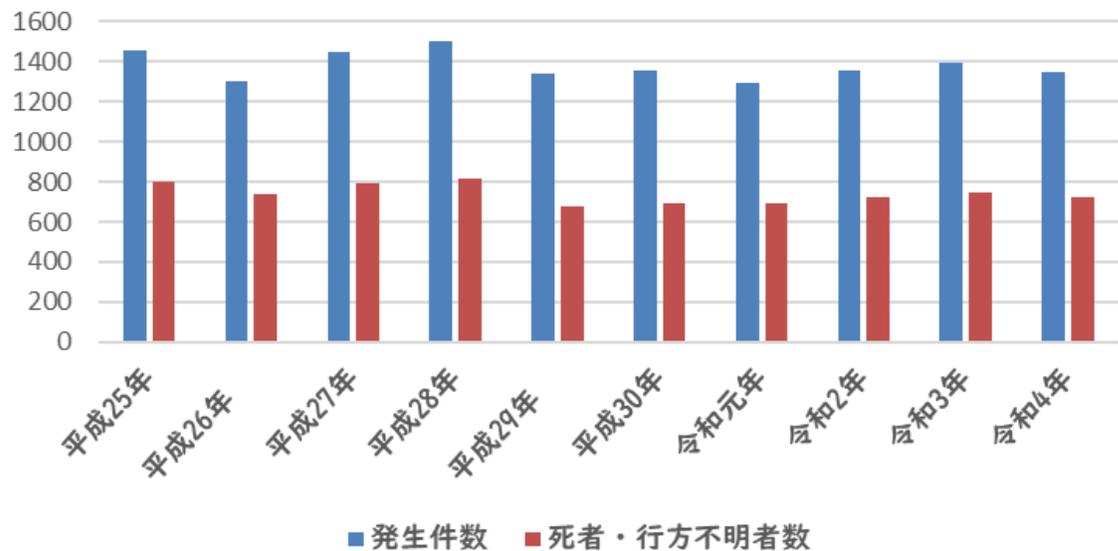
小・中学校における水難事故防止学習指導の活動報告：
5・6年生を対象にした川での授業の内容及びその成果と
課題を中心にして

岐阜聖徳学園大学

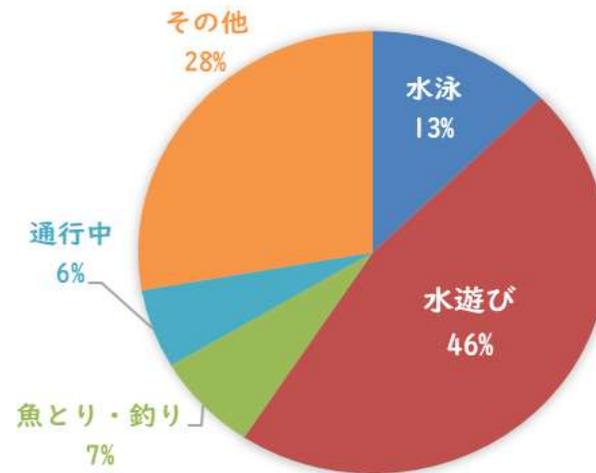
教育学部 体育専修 3年

成原拓巳、青木輝星、奥村光、朝長唯、丸山泰知、稲垣良介教授

水難事故発生件数及び死者・行方不明者数



中学生以下の子ども 行為別構成比



中学生以下の子ども 場所別構成比

各領域の内容 水泳運動系

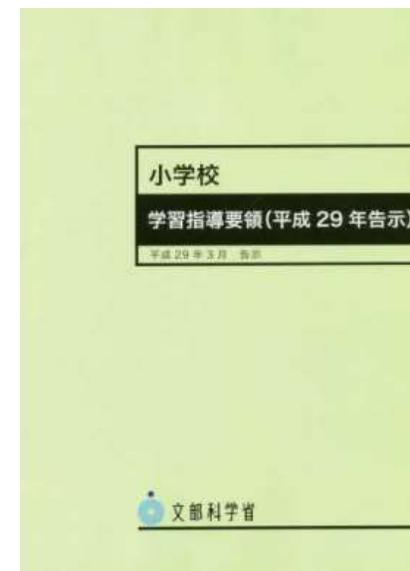
- ・「安全確保につながる運動」（水泳領域、小学校5・6年生）新設
（文科省（2018）小学校学習指導要領）

ねらい：十分に呼吸の仕方を身に付けさせること

（文科省（2018）小学校学習指導要領解説体育編）

- ・「着衣のまま水に落ちた場合の対処」（水泳領域、小学校5・6年生）
ねらい：より現実的な安全確保につながる運動の経験として、着衣をしたままでの水泳運動を指導に取り入れる

（文科省（2018）小学校学習指導要領解説体育編）



学校一覽

一宮市立葉栗小學校

多治見市立市之倉小學校

中津川市立付知中學校

下呂市立尾崎小學校

一宮市立葉栗小学校







多治見市立市之倉小学校







中津川市立付知中学校







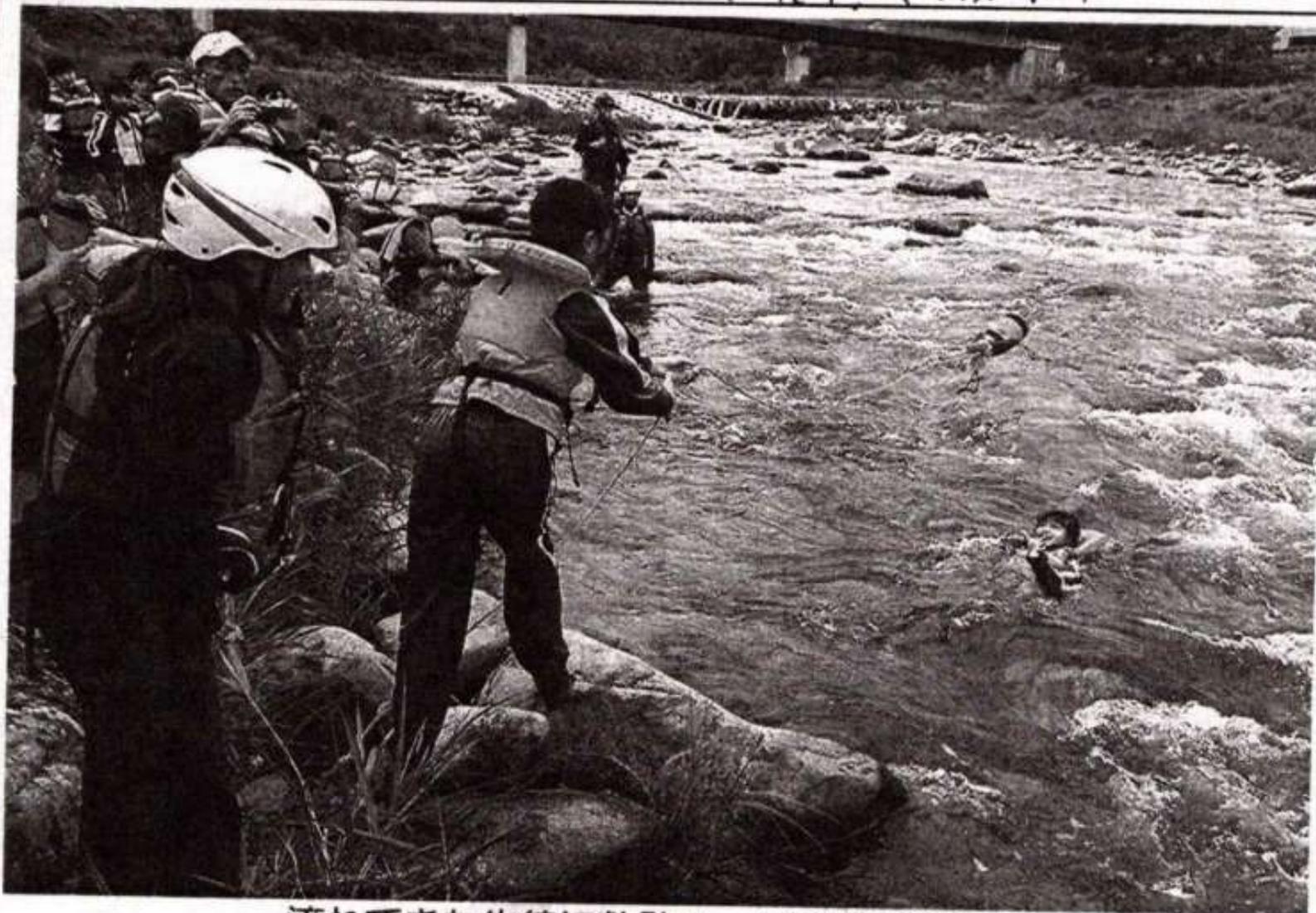
ロープ投げ救助訓練

水難防止 付知川で付知中1年生

中津川市の付知中学校は六日、水遊びシーズンに合わせて学校近くの清流・付知川で実践的な水難防止教室を開いた。

子どもを川に近寄らせな

い学校もあるが、付知中は川の安全教育を続けつつ川遊び程度は認めている。教室は十年ほど前に始め、一年生が受講する決まり。今年は約五十人が参加した。



流れてきた生徒に救助ロープを投げ渡そうとする生徒＝中津川市付知町の付知川で

(第3種郵便物認可)

2023. 7. 7 中日新聞

+

下呂市立尾崎小学校
授業の目的、考えたこと

○過去の事故を繰り返さないために、
命を守るために。

〈授業準備〉

- どんなねらいでどんな活動を行うのか。
- 授業終わりに目指す子どもの姿。

下呂市立尾崎小学校 1～4年生（プール）

	活動内容	準備・指導者の動き
7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整列・挨拶 体操→水慣れ（プールサイド座る（自分にかける、横の人にかける）→プール1周歩く→流れるプール作る） 	<p>『朝長』軽く話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〈その他は声を出し、メインの補助を行う、子供と一緒に活動する〉
34分	<p>○鬼倒し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鬼大学生（三人） ・ 鬼に水をかけて倒す <p>○鬼ごっこ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ものに捕まっている間は捕まらない（5秒間のみ） ・ 捕まったらプールサイドに座る <p>※時間によって複数回&ルール変更</p> <p>●ライフジャケット着用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で一斉につける <p>◎遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流れるプール ・ プールを二つに分ける <p>① ロープを使って流れる体験</p> <p>② 様々なものを使って自由に遊ぶ</p>	<p>『朝長』活動の仕方の説明or手本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鬼【奥村、青木、丸山】 <p>『朝長』活動の仕方の説明or手本</p> <p>▽捕まるもの（ペットボトル、ボール、）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鬼【成原、丸山】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間や子供の様子を見て判断する <p>▽ライフジャケット</p> <p>『朝長』子供一人前に出して一緒に着用する。</p> <p>〈その他は子供の補助〉</p> <p>『朝長』最初と同じように行く</p> <p>『朝長』遊び方の説明、遊び方</p> <p>▽ロープ</p> <p>▽遊ぶもの</p>
4分	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフジャケットについて子供と対話しながらまとめを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『朝長』ライフジャケットはどうだったか・付けて遊ぶ時と付けずに遊ぶ時どちらが安全か話しながらまとめにつなげる









成果と課題

子どもの感想から

- ライフジャケットを着ると浮く。
- ライフジャケットを着ると安全。
- 川ではライフジャケットを着る。
- ライフジャケットの着方がわかった。
- 自分の背中を水面側にしてボールを前にしたら何秒でも浮けると思った。
- 水を吸った服は想像以上に重く動きにくいことがわかった。
- 身をもってライフジャケットの重要性を感じられた。

授業者として（成果）

- ライフジャケットの存在を知ってもらうことができた。
- ライフジャケットを着ると水の中でも浮けると理解させることができた。
- 浮くモノを使った遊びからライフジャケットを着ることの必要性に繋げる授業ができた
- 学校でのプールの活動から川での安全に繋がる学びができた。
（ロープにつかまって流れる活動）
- 授業のねらいを達成できた。

授業者として（課題）

- 川の危険4要因に対しての理解が薄い。
- 正しい救助の待ち方の指導を行う必要がある。
(流されたら上を向いて浮くという意見が出たため)
- それぞれの活動の目的を伝える。
- 水辺の危険性についての理解が必要。
(資料を提示、過去の事故例)

下呂市立尾崎小学校 5, 6年生 (川)

時間	活動内容	◇準備・『』指導員の動き
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・整列→挨拶 ・準備運動 ・ライフジャケットを着させる。 →お手本見ながら児童も着る ・川を歩く (大学生4人についていく、4列) 	『成原』一人が軽くしゃべる。 『成原』一人が体操する。 ◇『その他』ライジャケ準備する。 『成原』一人前に立ってお手本。 『その他』着れそうな子の補助。 『奥村、朝長、丸山、青木』先頭歩く。 『その他』各所に立つ。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に遊んでもらう。 ○「たくさん危険があるから気を付けて」 【ねらい】川での活動を経験することで、川の危険要因に気付き、川で遊ぶ際の心得を考えることを通して安全に川で活動できるようにしよう！ ・子どもたちの発見を発言してもらおう。 ○どうして川で事故が多いと思う？ →自由発言させる。 ・・・4要因（流れ・深み・水温・川底） +行動・環境 ◎どうしたら安全になる？ →グループで考えてもらう (6人×4、5人×2)くらい →全体発表 ・掟を伝える。 ・安全に遊ぶ（自分たちで安全に遊ぶ方法を考えて） 	『成原』 ◇掲示物 『成原』 『青木・奥村』掲示物を持つ 『成原』 『みんな』 グループを移動しながら行きづまってそうなら助ける。 『成原』 ◇『奥村・丸山』掲示物
終末 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ○この授業で学んだこと 近くの子と交流→全体発表 ・挨拶 	『成原』 ・子供たちが話してくれた内容でまとめを行う。







めあて

- 川で安全に活動することができるよう、危険な要因を知ろう。
- 川で遊ぶ際の注意点を考えよう。





～川でのおきて～

- さ サンドル（かかとあり）を履く！
- ら ライフジャケットをつける！
- だ 誰か（大人）と一緒に行く！
- ば 場所（安全な）を選んで遊ぶ！
- あ 雨でぞう水しているときは近づかない！



子どもの水難事故

どこで発生しているの？



何をしている時に？



SPORTSMAC



成果と課題

子どもの感想から

- これから川で遊ぶ時にルールを守って遊びたい。
（「さらだばあ」の内容）
- 流れが速いところに行かない。
- 深い（膝より上）ところにはいかない。
- 流れたものを無理して取りにいかない。
- 川は安全に楽しく遊ぶ場所だとわかった。
- いつも遊んでいる場所にも危険がたくさんあることがわかった。

授業者として（成果）

- 川には危険な場所、命を落とす可能性のある場所がたくさんあることを理解させることができた。
- 川は危険×、川は安全に楽しく遊ぶ場所○
- ライフジャケットの大切さを実感させられた。
- 川で安全に遊ぶために考え、交流できた。
→今まで遊んでいたことが危険だったことに気付く
- プールや用水路でも事故が起きていることを伝えられた。

授業者として（課題）

- 「さらだばあ」に対しての理解が薄い。
- 子どもに対しての発問が多い。
- めあてに対してのまとめがなかった。
→最後に確認する、資料を配布する。
- 実際の事故例を挙げて具体的な指導が必要。
- 児童に聞く耳をもたせる。
(活動するとき、聞くときのメリハリ)

来年度に向けて

- ライフジャケットに対しての**過信**。
(命を落とすことはない、どんな遊び方でも大丈夫など)
- **教える部分**と子どもから**引き出す部分**。
→ 事後指導ができると十分な指導ができる。
- ねらい、活動、まとめを繋げる
(子どもが理解しやすく、学びやすい授業)

ご清聴
ありがとうございました

